

平成 28 年度 多文化共生セミナー

「やさしい日本語ってなんだ？」 事業報告

平成 29 年 2 月 25 日(土)午後 1 時 30 分より熊本市国際交流会館 6 階ホールに於いて平成 28 年度多文化共生セミナー「やさしい日本語ってなんだ？」を開催しました。みなさんは「やさしい日本語」という概念をご存じですか？普段私達が使っている日本語を外国人は理解できるでしょうか。「やさしい日本語」とは・簡易な語彙・表現・シンプルな文構造・漢字に振り仮名を振る・漢字に配慮する、等外国人に対してだけでなく、小さな子どもや高齢者、障害を持った人など、多様な人たちに配慮した易しくて、優しい日本語のことです。この「やさしい日本語」がなぜ今後地域社会で重要となっていくのか、なぜ外国人にとっても「やさしい日本語」が多言語情報に加え必要なのかを熊本地震での体験を踏まえ考える為、今回の多文化共生セミナーのテーマとして取り上げました。

事例発表として、当事業団の上田より熊本市国際交流会館での避難所運営、多言語情報発信及び避難所巡回を通して感じた多言語での相談、情報提供が重要で今後の外国人支援でも重要であるとの事例報告があり、その後(公財)横浜市国際交流協会 藤井さんより、「やさしい日本語」を積極的に取り入れている横浜市国際交流協会の事例、そして熊本地震での多言語災害情報の発信や避難所巡回での経験を通じて、英語、中国語、韓国語以外の言語を母国語とする人達へは「やさしい日本語」での情報提供が重要かつ、有効だったとの話がありました。休憩をはさみ、後半は「どんな日本語がわかりやすい？」をテーマにネパール人コミュニティ代表でもあるハリ・プラサデウ・デブコタ熊本大学特任助教、武蔵ヶ丘地域日本語教室学習者代表の照喜名桂芬さんと熊本地震時に災害情報を「やさしい日本語」ヘリライトされた文化庁日本語教育スタートアッププログラムコーディネーター道本ゆう子さんにパネリストとしてご参加いただきました。

外国人(やさしい日本語の受け手)の立場で感じた「やさしい日本語」の意味・意義や「やさしい日本語」を出す側が必要とする「やさしい日本語」の基礎的な考え方を学べる大変有意義なセミナーでした。事業団では今後の多文化共生社会推進の手段の一つとして「やさしい日本語」を軸に地域住民と在熊外国人とを繋ぐ取り組みを積極的に推進していきたいと考えています。「やさしい日本語」のキーワードでもある、「お互いの歩み寄り」を実践するため、外国人だけが「やさしい日本語」を学ぶのではなく、日本人も積極的に「やさしい日本語」を学び、実践していくように心がけていきたいと思います。



「外国人向け防災訓練」 事業報告

平成 29 年 2 月 18 日(土)に外国人向け防災訓練を実施しました。昨年 4 月 14 日及び 16 日に発生した熊本地震をはじめ、災害の多い日本で生活する上では防災知識、防災意識の向上が欠かせません。特に熊本は台風・大雨等風水害が多く発生しやすい地域です。また熊本地震を経験した留学生、技能実習生達は 2 年から 3 年で大学課程や研修を終え、就職や帰国等で熊本を離れます。その後新たな留学生や技能実習生が入ってきます。その多くは日本での災害時のノウハウや防災知識も経験もない人達です。新たに熊本で生活を始める留学生、技能実習生等の外国人を対象に防災訓練を開催しました。

今回の防災訓練では熊本地震での経験を基に避難所開設訓練を行いました。まず地震模擬体験として照明を落としたホール内に地震映像等を流し、このホールが避難所になった想定で開始。ボランティアと職員が協力して避難所開設準備を行いました。外国人参加者も避難所内表示の多言語翻訳等を手伝い、協力して準備を行いました。その後、炊き出し(避難食)体験として市内のパキスタン料理店タージよりハラル・カレーを参加全員で食べ、避難所内での生活の模擬体験を行いました。午後から内閣府が作成している地震時のシュミレーションクイズを行い、地震時の行動についての確認を行いました。後半は外国人参加の質問に、当事業団アドバイザーである羽賀長岡市国際交流センター長が実体験を基にアドバイスを行いました。熊本地震後だった為、参加者も真剣に様々な質問をしていました。

例えば・・・

質問 1：地震がおきてすぐ、逃げようとしたらドアが開きませんでした。
どうしたらよかったのでしょうか？

質問 2：地震が起きてすぐ広い場所へ行こうとして怪我をしました。
地震直後はどうすればいいのでしょうか？



また、震度とマグニチュードの違いや、平時からどのような準備が必要かなどの質問があり、羽賀センター長が丁寧に答えていました。

災害時のノウハウや防災知識を学ぶ防災訓練は今後熊本で安全に生活していく上で大変重要な取組です。今後私達事業団では継続してこの外国人向け防災訓練を開催していきます。



質問 1 回答：外部の人に大きな声を出し、物をたたいたりして、助けを求める。

質問 2 回答：テーブルなど下に隠れ、揺れが収まるのを待つ、そして外に出るときはクッションなどで頭を守って外の広いところへ出る。

(飲料水、携行食に加え、懐中電灯、ヘルメット、手袋、スリッパ等身を守る物を身近に置いておくことも大切です。)